

## 高嶺欽一教授の略歴

- 1936年（昭和11年） 9月1日 現韓国ソウル市に生まれる
- 1945年11月 母の出身地・島根県に引き揚げ、1946年1月父の出身地・鹿児島県鶴田村に移住
- 1952年3月 県立宮之城高校に入学（水泳部に所属・53年国体に出場）
- 1955年4月 鹿児島大学文理学部社会学科に入学
- 1959年3月 卒業
- 1959年6月 南日本新聞社編集局に就職
- 1959年7月 文化部に配属（催事担当，大学担当，医療担当，スポーツ担当）
- 1966年4月 社会部に配属（運輸・交通担当，気象担当，保健衛生担当，ロケット担当ほか）
- ・ 東大宇宙科学研究所が内之浦から打ち上げた国産第1号人工衛星を報道
  - ・ 宇宙開発事業団の種子島宇宙センターの初期の頃を報道
  - ・ 高度経済成長下で進行する鹿児島県の過疎化の実態を連載もので報道
  - ・ 梅雨期の集中豪雨と宅地造成地の崩壊被害を報道
- 1971年4月 政経部に配属（鹿児島市政担当，地域経済担当）
- ・ 「地方の時代」のテーマのもと『明日を開く地方都市』を連載（80回）
  - ・ 志布志湾岸工業開発問題の報道に加わる
  - ・ 鹿児島市長選挙を報道
- 1974年4月 枕崎支局長（77年3月まで。75年国体水泳に出場）
- 1977年4月 政経部に配属（県政担当）
- ・ 志布志湾岸工業開発問題の報道に重点的にかかわる
  - ・ 各種選挙の報道に重点的にかかわる
  - ・ 国会議員の仕事の実態等を連載もので報道
  - ・ 補助金と地方行政の実情を連載もので報道
- 1978年4月 論説委員兼務になる（『南風録』を担当，1年後に社説担当）

1980年4月	文化部デスクになる（論説委員兼務）
1982年4月	専任の論説委員になる
1985年7月	初代運動部長になる（論説委員兼務）
1988年4月	東京支社報道部長になる（論説委員兼務）
1991年4月	専任論説委員
1994年2月	印刷局長になる
1996年2月	論説委員長になる
1997年3月	南日本新聞社を退職
1997年4月	県立短期大学教授に就任
1998年4月	地域研究所長になる（2000年3月まで）
2002年3月	県立短期大学を退職

※研究論文など

▽鹿児島市の商店街の現状と課題（本学『商経論叢』第48号）1998年

▽志布志町 現状と振興策を考える

（本学地域研究所『研究年報』第31号）2000年

▽過疎地域における介護保険（本学地域研究所『研究年報』第32号）2001年

▽移民，そして集団就職（本学『商経論叢』第51号）2001年

▽過疎化の構図～笠沙・大浦～（本学地域研究所『研究年報』第33号）2002年

▽高度成長にほんろうされた鹿児島（本学『商経論叢』第52号）2002年